

インフォメーション・コーナー

令和8年9月の台風25号により、お亡くなりになった方々へ謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、家屋、農地等に甚大な被害を受けられた皆様の安全と、被災地域の日も早い復旧・復興を深く祈念いたします。

会 告

○第76回（2027年度）農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10月31日	60
○刊行物「農業用ダム保全管理工学」のご案内	61
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊	61
○刊行物 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」のご案内	62
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	62
○CPD 通信教育の参加者募集!! 問題と解答はホームページに掲載	63
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	63
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	65
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2026年7月から2028年6月までの編集体制と編集事務局	65
○令和8年度応用水理研究部会講演会の開催 ㊦ 原稿提出締切 11月21日	66
○第65回土壌物理研究部会研究集会の開催（第2報） 11月27日開催	66
○令和8年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦 応募締切 11月4日	67
○第63回材料施工研究部会シンポジウムの開催（第1報） ㊦ 参加申込期日 11月11日	67
○第39回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催 発表申込締切 10月13日	68
○日本腐植物質学会第42回講演会の開催 参加事前登録締切 10月16日	68
○業務に役立つセメント系補修・補強材料の技術講習会の開催 12月15日開催	69
○第35回微粒化シンポジウムの開催 12月16～17日開催	69
農業農村工学会論文集 内容紹介	70
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧 ㊦	71
学会記事	72

第94巻第11号予定

展望：農地整備による新たな農業展開への期待：山下清則

小特集：農地整備を契機とした新たな農業経営

報文：大区画水田整備による低コスト稲作経営体の創出：石井 敦

報文：あきた型ほ場整備を契機とした大規模園芸拠点の展開：中川進平ほか

報文：大区画・パイプライン整備を契機とした大規模水田経営の展開：坂田 賢

報文：スマート農業技術を活用した実需向け米生産：西田和弘ほか

技術リポート

北海道支部：支持層の深い地盤における橋梁の摩擦杭の検討事例：松本美穂ほか

東北支部：圃場整備における反転均平工法の施工事例：佐藤友映

関東支部：広域農道小田原湯河原線における ICT 活用工事：曾我 聡

京都支部：ため池改修に当たり底樋管を推進工法により設置した事例：三好浩平

中国四国支部：2つの地震による鳥取県中海干拓地の被災状況の比較：河本 隆ほか

九州沖縄支部：地下ダム施工における斜めボーリングを用いた断層位置の特定：伊藤勇志ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2026年10月8日	農業農村工学会	農業用ダム研究会シンポジウム	—	文京区	94巻9号
2026年10月29～30日	中国四国支部	第81回支部講演会 第50回地方講習会	㊦ —	徳島市	94巻7, 8号
2026年10月29～30日	九州沖縄支部	令和8年度(第107回)支部大会	㊦ 未定	大分市	94巻4, 8号
2026年11月5日	北海道支部	第45回研修会	㊦ 30年後の北海道農業・農村の姿	札幌市	94巻9号
2026年11月6日	北海道支部	第75回研究発表会	㊦ —	札幌市	94巻9号
2026年11月10日	関東支部	第77回支部大会	㊦ —	甲府市	94巻6, 8号
2026年11月19～20日	東北支部	令和8年度総会・第66回研究発表会・第56回研修会・第46回地方講習会	㊦ —	山形市	94巻8号
2026年11月19～20日	京都支部	第83回研究発表会	㊦ —	京都市	94巻4, 6号
2026年11月20～21日	水文・水環境研究部会	第39回シンポジウム	—	神戸市	94巻10号
2026年11月27日	土壌物理研究部会	第65回研究集会	有機物施用に対する土壌物理学的アプローチ	文京区	94巻9, 10号
2026年12月5日	応用水理研究部会	令和8年度講演会	㊦ 農業農村工学分野における応用水理学に関する研究	つくば市	94巻10号
2026年12月14日	材料施工研究部会	第63回シンポジウム	㊦ 材料施工分野における先端研究・技術開発	Web	94巻10号

第76回（2027年度）農業農村工学会賞候補の推薦

第76回（2027年度）の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、下記の募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。なお、推薦書様式および授賞規程は学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）をご参照ください。推薦書提出先および提出方法：学会賞選考委員会担当（new-suido@jsidre.or.jp）宛に電子メールでお送りください。提出ファイル：推薦書のエクセルファイルおよびエクセルファ

イルをPDF化したファイルの2ファイル（推薦者の押印は不要、パスワードを設定してください。）推薦締切：2026年10月末日
その他：メールが届き次第、受領の返信をしますが、数日経過しても返信がない場合は、上記担当者宛にお問い合わせください。

第76回（2027年度）農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2024年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人					個人または組織、団体	

推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。				
賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2016年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2024年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までにを行ったものとする。	2021年10月から2026年9月までにを行ったものとする。	2024年10月から2026年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。							2026年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(いずれも返却しない)。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2027年度(第76回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2026年10月末日							
推薦書の提出先	公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛 new-suido@jsidre.or.jp							

刊行物 「農業用ダム保安全管理工学」のご案内

農業農村工学会では、学会内で長年活動した農業用ダム保安全管理研究会を母体に農業用ダム保安全管理工学編集委員会を組織して、「農業用ダム保安全管理工学」を出版しました。改正土地改良法において、保全が明記されています。そのため、現場技術者が知っておくべき農業用ダムの技術を基礎的な事項から解説することで、技術研修のテキストや大学での教科書にも活用できることを意図しています。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：農業用ダム保安全管理工学

編 集：農業用ダム保安全管理工学編集委員会

発 行：（公社）農業農村工学会

価 格：3,960円（税込）、学割：2,860円（税込）

送 料：1冊200円（最大600円）

規 格：A5判 306ページ

発行日：令和7年9月1日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊

令和7年4月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」（農林水産省農村振興局編集）を令

和7年12月に発刊しました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画
「排水」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,530 円（税込），送料：1 冊 200 円（最大 600 円）

規格：A4 判 366 ページ

発行日：令和 7 年 12 月 17 日

2. 申込み方法

I. 個人，法人の場合（賛助会員を除く）

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書をご同封ください。

- ③ 代金引換：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail でお送りください。別途，送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書を E-mail でお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

刊行物 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」，設計「頭首工」，設計「農道」のご案内

令和 6 年 3 月に制定された，土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」，設計「頭首工」，設計「農道」（農林水産省農村振興局編集）を令和 6 年 10 月に発刊しました。

購入希望の方は，下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画
「農道」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：1,760 円（税込），送料：1 冊 200 円（最大 600 円）

規格：A4 判 173 ページ

発行日：令和 6 年 10 月 10 日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計
「頭首工」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：4,510 円（税込），送料：1 冊 200 円（最大 600 円）

規格：A4 判 728 ページ

発行日：令和 6 年 10 月 7 日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計
「農道」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,970 円（税込），送料：1 冊 200 円（最大 600 円）

規格：A4 判 850 ページ

発行日：令和 6 年 10 月 7 日

2. 申込み方法

I. 個人，法人の場合（賛助会員を除く）

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書をご同封ください。

- ③ 代金引換：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail でお送りください。別途，送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書を E-mail でお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

社会的状況を踏まえ学会では 2026 年度の学生年会費を免除しています。また，大学では，若手の研究者のみならず，教授

を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており，人材の育成も困難になっています。そのため，産官学の連携協力の

強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

2024年5月には、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充（⑦）を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）
（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

- (2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発
- ③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究

の推進

- ・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

- ・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
- ・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ（https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/）をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 通信教育の参加者募集 !! 問題と解答はホームページに掲載

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

技術者継続教育機構のホームページにおいて、その時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認いただけます。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構

の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 10 号掲載の問題は 11 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・

編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4 判、

1,500字程度、様式自由)を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原

稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第94巻・第95巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第94巻第11号 農地整備を契機とした新たな農業経営	終了
12号 土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用	終了
第95巻第1号 農業農村工学研究のフロンティア	終了
2号 渇水リスクの高まりに立ち向かう農業用水の管理技術	終了
3号 集落の将来を考える	終了
4号 農業農村工学技術の開発と普及の促進に向けて産学官は何をすべきか(仮)	公募なし
5号 農業農村工学におけるAI実装の実践(仮)	11月10日
6号 土地改良区の課題と将来展望(仮)	12月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先(要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL: 03-3436-3418

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第95巻第5号テーマ「農業農村工学におけるAI実装の実践」(仮)

近年、農業農村工学の分野においても、画像解析、数値予測、施設管理、気象・水文データ解析など、さまざまな場面でAIの活用が進んでいます。AIは大量のデータから有用な特徴を抽出できる一方で、学習データに限られる現場や未知の条件に適用する場合には、予測精度や結果の解釈に課題が残ることも少なくありません。

こうした課題に対するひとつの方向性として、対象とする現象の物理的理解や経験的知識をAIに取り入れる考え方が注目されています。農業農村工学が扱う水の流れ、土や構造物の変形、材料劣化、気象・水文の変動などには、これまで蓄積されてきた理論、モデル、計測技術、現場知が存在します。AIを単なるブラックボックスとして用いるのではなく、これらの知識と組み合わせることで、少ないデータでも信頼性の高い予測を行い、結果の意味を説明しやすくすることが期待されています。

一方で、AIの性能はモデルだけでなく、入力データの質や

実装方法にも大きく左右されます。現場データには欠測、ノイズ、観測条件のばらつき、機器差などが含まれることが多く、異常値処理、ノイズ除去、校正、データ統合、データに正解情報や分類情報を付与するアノテーション、前処理の標準化といったデータ整備が結果の信頼性を支えています。また、モデル選定、データの前処理からモデルの学習、学習済みモデルによる予測・判定までをつなぐ一連の処理手順の構築、計算資源や運用・保守を見据えた設計、不確実性の把握など、AIを現場で継続的に活用するための工夫も重要です。

本小特集では、農業農村工学分野におけるAI技術の実践例、課題、今後の展望を広く紹介します。物理的理解を取り入れた手法に限らず、データ整備、解析支援、実装・運用、現場適用に関する具体的な工夫も含め、研究と実務の双方の視点から、実用的で信頼できるAI活用のあり方を考える機会となれば幸いです。

学会誌第95巻第6号テーマ「土地改良区の課題と将来展望」(仮)

土地改良区は、農業水利施設の維持管理や農業用水の安定供給を担うとともに、地域資源の保全や農村コミュニティの維持・発展に重要な役割を果たしてきました。農業水利施設はわが国の農業生産を支える基幹的な社会資本であり、その機能を将来にわたり発揮していくためには、施設を管理する土地改良区の存在が不可欠です。

一方で、農業者や農村人口の減少、高齢化の進行により、こ

れまで地域の共同活動によって支えられてきた農業水利施設の維持管理体制は脆弱化しつつあります。また、施設の老朽化による突発事故の増加や維持管理費の増大、気候変動に伴う災害リスクの高まりなどへの対応も求められています。土地改良長期計画においても、農業水利施設の保全管理体制の構築と、その中核を担う土地改良区の運営基盤の強化が重要な課題として位置付けられています。

こうした課題に対応するため、土地改良区の合併等による再編整備、経営基盤の強化、女性や若者の理事登用の促進、准組合員制度や施設管理准組合員制度の活用など、多様な取組みが進められています。また、改正土地改良法に基づき、土地改良区が主体となって市町村や集落、多面的機能支払活動組織などの関係者と将来の保全体制や役割分担を共有し、地域全体で農業水利施設等の保全に取り組むための「水土里ビジョン」の策定・推進も進められています。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き

本小特集では、このような土地改良区を取り巻く現状や課題を整理するとともに、組織運営の強化、人材の確保・育成、施設管理体制の再構築、地域の関係者との役割分担や連携、水土里ビジョンの活用などに関する研究成果や実践事例を幅広く募集します。これらを通じて、土地改良区が地域農業と農村社会を支える中核的組織として持続的に発展していくための方向性について考える機会となることを期待します。

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6 版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂 6 版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2026 年 7 月から 2028 年 6 月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」（略称：PAWE）を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2025 年のインパクトファクター（IF）は 2.1 であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）

- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑輪換、田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界 12 カ国から Editor（22 名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer

社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2026年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです（一部検討中）。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Yu-Pin LIN

College of Bio-Resources and Agriculture, National Taiwan University, Taiwan

・ Associate Editors-in-Chief

検討中

・ Editors 12カ国から22名

・ Editorial Advisors 27名

・ Chief Managing Editor

検討中

編集事務局（2028年6月まで韓国担当）

検討中

投稿先：オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：<https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年4回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 9,900 円（税込）

学生会員（院生含む）4,950 円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

令和8年度応用水理研究部会講演会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



令和8年度応用水理研究部会講演会は、つくば国際会議場での開催を予定しています。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

1. 日時 2026年12月5日（土）9：00～16：00

2. 場所 つくば国際会議場 小会議室 301

茨城県つくば市竹園 2-20-3

つくばエクスプレスつくば駅より徒歩約10分

3. 課題 農業農村工学分野における応用水理学に関する研究

4. 発表時間 1課題当たり20～30分（発表課題数により調整）

5. 発表原稿

農業農村工学会大会講演会と同じA4の様式とします。PDFファイルでの提出をお願いします。枚数制限はありません。

6. 講演要旨集

講演会開催までに当研究部会のホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/ouyousuiri/>) にて公開する予定です。講演要旨集（印刷物）の配付はございませんので、参加される方は

は事前のダウンロードをお願いいたします。

7. 参加申込み

2026年11月7日（土）までに、下記9.の問合せ先宛てに、氏名・所属・所属住所（郵便番号を含む）・発表の有無をE-mailにてお知らせください。件名は「応用水理研究部会講演会への参加申込み」としてください。

8. 原稿提出

2026年11月21日（土）必着です。下記9.の問合せ先に、E-mailにてファイルを送付願います。件名は「応用水理研究部会講演要旨」としてください。ファイルサイズが大きい場合は、大容量ファイル転送サービスなどをご利用ください。

9. 問合せ先

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1

茨城大学農学部 前田滋哉

TEL：029-888-8601

E-mail：shigeya.maeda.15@vc.ibaraki.ac.jp

第65回土壌物理研究部会研究集会の開催（第2報）

令和8年度土壌物理研究部会主催の第65回研究集会は、「有機物施用に対する土壌物理学的アプローチ」をメインテーマとして、現状の課題や今後の展開について議論することにいたしました。本研究集会は、下記スケジュールで開催いたします。大学・研究機関のみならず、国、地方公共団体、企業における研究者・技術者の皆様におかれましては、ぜひともご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

1. 主催 農業農村工学会土壌物理研究部会

共催 土壌物理学会

2. 日時

2026年11月27日（金）13：00～16：00（12：30受付開始）

3. 会場

東京大学弥生キャンパス フードサイエンス棟 中島ホール

4. 参加費 無料

5. 研究集会講演内容

テーマ「有機物施用に対する土壌物理学的アプローチ」

- ①「熱帯土壌への資材投入が窒素負荷や肥沃度に与える影響とモデル化に向けて」

濱田耕佑(国際農林水産業研究センター熱帯・島嶼研究拠点)

- ②「黒ボク土畑からの N_2O 排出フラックスを規定する土壌環境条件の検討と簡易なプロセスモデルの構築」

林 暁嵐(茨城大学農学部)

- ③「土壌中の重金属移行性低減に向けた有機物資材の可能性」

櫻井伸治(大阪公立大学大学院農学研究科)

6. 参加申込み

Google フォーム(<https://forms.gle/gZa14h1vPXeKoz2d9>)に氏名とメールアドレス等をご入力ください。参加登録者に要旨集(PDF)をお送りします。

7. 宿 泊

部会としての準備はありませんので、各自で対応をお願いいたします。

8. その他

研究集会翌日の11月28日(土)に、同じく東京大学農学部において土壌物理学会大会が開催され、学会大会終了後に学会と合同の懇親会を開催いたします。

9. 連絡・問合せ先

農業農村工学会土壌物理研究部会事務局

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学大学院生物資源学研究科 渡辺晋生・坂井 勝

TEL: 059-231-9251

E-mail: sakai-m@bio.mie-u.ac.jp

令和8年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦

材料施工研究部会では、平成15年2月発刊の図書「建設材料—地域環境の創造—」の出版記念行事の一環として「研究奨励基金」を設け、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できる優れた研究成果をあげた学会員を表彰いたします。令和8年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞の候補を下記の要領で公募いたしますので、会員各位には自薦または他薦による応募をお願いいたします。

なお、過去の受賞者は本部会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/zaiseko/>)をご参照ください。

令和8年度 農業農村工学会 材料施工研究部会研究奨励賞募集要領

1. 受賞対象者

本研究奨励賞は、農業農村工学の材料施工関連分野において優れた研究成果をあげた者に与えられる。

1.1 対象研究業績

当該前年度または前々年度に発行された農業農村工学会論文集および学会誌、農業農村工学会大会講演会、材料施工研究部会シンポジウムの材料施工関連分野で発表された研究であること。

- (1) 研究成果が材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できること。
- (2) 材料施工関連分野とは、材料、施工、応用力学および土質力学を指す。

1.2 受賞対象者の資格

- (1) 農業農村工学会の正会員または学生会員であること。

- (2) 対象となる研究業績の主体者でかつ発表者または第一著者であること。

- (3) 既受賞者は3年間選考対象から除く。

2. 応募資料

(1) 推薦書

本部会ホームページ(https://www.jsidre.or.jp/zaiseko_suisen/)にある推薦書ファイル(zaiseko_prize-form.doc)をダウンロードし、必要事項を記入すること。推薦書は1ページ以内にまとめること。

(2) 対象となる研究業績の別刷り

※(1)、(2)いずれもPDFを下記部会長宛てに送信すること。

3. 応募締切 令和8年11月4日(水)

4. 応募先・問合せ先

〒950-2181 新潟県新潟市五十嵐二の町 8050

材料施工研究部会 部会長 鈴木哲也

TEL: 025-262-7395

E-mail: suzuki@agr.niigata-u.ac.jp

5. 審 査

農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞選考委員会が審査し、幹事会により決定する。審査結果は、別途受賞者に通知する。

6. 表 彰

受賞者には、令和8年度に開催予定の本研究部会シンポジウムにおいて表彰するとともに副賞を授与する。また、表彰の結果は部会報などで公表する。

第63回材料施工研究部会シンポジウムの開催(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会材料施工研究部会

2. テーマ 材料施工分野における先端研究・技術開発

3. 期 日 令和8年12月14日(月) 13:00~17:00(予定)
4. 会 場 Web 開催
5. シンポジウムプログラム
- 開会挨拶
- 材料施工研究部会研究奨励賞授与式
- <基調講演> 農研機構農村工学研究部門
- 施設機能管理グループ長 川邊翔平
- <一般講演>
- (1) 神戸大学大学院農学研究科 助教 園田悠介
- (2) 農研機構農村工学研究部門
- 地中構造物グループ研究員 大山幸輝
- (3) NTC コンサルタンツ(株) 山内祐一郎
- 閉会挨拶
6. 申込み・問合せ先
- 申込み期日(幹事以外の参加希望者):
- 令和8年11月11日(水)
- 〒753-8515 山口県山口市吉田1677-1
- 山口大学大学院創成科学研究科農学系学域
- 申込受付担当: 萩原大生
- TEL: 083-933-5292
- E-mail: t-hagiwara@yamaguchi-u.ac.jp
7. その他 詳細は、本誌第11号に掲載予定です。

第39回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催

水文・水環境研究部会は、第39回水文・水環境研究部会シンポジウムを下記のように開催します。

1. 主 催: 農業農村工学会 水文・水環境研究部会
2. 日 時: 2026年11月20日(金) 13:00~17:00
- 2026年11月21日(土) 9:00~12:00
3. 会 場: 神戸市男女共同参画センター あすてっぷ KOBE
- 〒650-0016 神戸市中央区橘通3-4-3
4. 研究発表の申込み締切
- (1) 10月13日(火)までに発表者、仮タイトル、査読の有無を下記申込み先までお知らせください。

- (2) 11月13日(金)までに原稿を下記提出先にご提出ください。
- (3) 原稿フォーマットは部会ホームページに掲載してありますので、そちらをご参照ください。
- https://www.jsidre.or.jp/suimon-mizukankyo_journal/

5. 申込み・原稿提出および問合せ先
- 神戸大学大学院農学研究科 田中健二
- tanaka-k@people.kobe-u.ac.jp

日本腐植物質学会第42回講演会の開催

1. 主 催 日本腐植物質学会
- 協 賛 農業農村工学会ほか
2. 日 時
- 2026年11月3日(火) 午前~11月4日(水) 夕刻(予定)
3. 会 場 金沢市商工会議所会館 研修室1
4. 内 容
- ・テーマ講演 11月3日(火) 午後
- 【題目】 さまざまな水環境における溶存有機物の動態
- 【概要】 水環境における溶存有機物(DOM)は、元素循環、生物生産、難分解性有機炭素の貯留を左右する重要な有機物群である。その機能や動態は化学組成や物理化学的性質に依存するが、DOMの組成は、供給源、輸送、分解・変質、粒子との相互作用、海水との混合などにより時空間的に変化する。したがって、DOMの環境機能を理解するには、濃度だけでなく、その「質」を動態と結びつけて評価・解釈することが重要である。
- 本テーマ講演では、さまざまな水環境における溶存有機物(DOM)を対象に、その起源と動態を概観したうえで、陸水(河川・湖沼・湿地等)および海洋におけるDOMの動態へと議論を展開し、これまでの研究の到達点と今後

の展望を整理する。

【講演予定者】 小川浩史(東京大学教授)、眞家永光(北里大学教授)、山下洋平(北海道大学教授)、長尾誠也(金沢大学教授)

※1人30分の講演と、30分程度の総合討論を行う。

・企画講演 11月3日(火) 午後

【題目】 琵琶湖フルボ酸の頒布について(仮)

【概要】 日本腐植物質学会標準試料である琵琶湖フルボ酸を基盤として、化学組成・分子特性解析に基づく分子レベルの特徴づけを取り上げる。これにより、標準試料を基準として各分析法で得られる情報の対応関係を整理する。

【講演予定者】 藤嶽暢英(神戸大学教授)

・一般講演: 口頭発表およびポスター発表

11月3日(火) 午前、午後、11月4日(水) 午前、午後

※プログラムの最終決定は10月中旬にホームページよりお知らせします。

5. 参加費

会員2,500円、非会員5,000円(要旨集代を含む)

懇親会参加費: 会員8,000円、学生4,000円

※参加費、懇親会費は、原則として当日受付にて現金で徴収

いたします。

6. 締 切

講演要旨提出締切： 10月16日（金）

参加事前登録締切： 10月16日（金）

※当日参加も受け付けますが、可能な限り事前登録をお願いいたします。

7. 講演・参加申込み方法

講演題目（口頭・ポスターの別）、発表者（会員・非会員の別）、所属、連絡先、懇親会参加の有無を明記の上、下記 E-mail にてお申し込みください。発表は1人1題です。

若手を対象としたポスターおよび口頭発表賞を設けています

ので、奮って応募してください。

※発表者は会員に限りますので、非会員の方は事務局までご連絡ください。

※今大会から、講演要旨を Humic Substances Research 誌に掲載することとなりましたので、あらかじめご了承ください。

8. 問合せ・申込先

第42回講演会実行委員長 長尾誠也

〒923-1224 石川県能美市和気町オ24

金沢大学環日本海域環境研究センター低レベル放射能実験施設

E-mail：nagao37@staff.kanazawa-u.ac.jp

URL：https://www.humic-substances.jp

業務に役立つセメント系補修・補強材料の技術講習会の開催

1. 主 催 （一社）セメント協会

後 援 農業農村工学会ほか

2. 日 時 2026年12月15日（火）13：00～16：20

3. 会 場 広島市文化交流会館 3階 大会議室 銀河

4. 申込み方法

セメント協会ホームページのセミナー・動画配信申込ページ（https://jcafukyu.jp/）をご覧ください。

5. 問合せ先

（一社）セメント協会 普及部門

TEL：03-5540-6180

6. その他

詳しくは、セメント協会ホームページのセミナー・動画配信申込ページをご覧ください。

第35回微粒化シンポジウムの開催

1. 主 催 日本エネルギー学会 日本液体微粒化部会
（ILASS-Japan）

協 賛 農業農村工学会ほか

2. 日 程 2026年12月16日（水）～17日（木）

3. 会 場

岡山コンベンションセンター

〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町14-1

（アクセス詳細は https://www.mamakari.net/access/ を

ご覧ください）

4. 問合せ先

（一社）日本エネルギー学会事務局

E-mail：ilass2026@jie.or.jp

5. その他

詳しくは、微粒化シンポジウムのホームページ（https://www.jie.or.jp/pages/1111/）をご覧ください。